2018年度神奈川公立高校共通選抜

国語 入試分析

～入試ではこう出る！！～

問一　漢字の読み書き、助動詞、短歌の鑑賞　配点20点

出題傾向に大きな変化はない。（イ）の漢字の書きに関する問題は平成29年度と同様に、同じ漢字を使う熟語を選ぶ形式だった。しかし、今年度は選択肢も漢字ではなくカタカナで書かれており、漢字力が試される。普段からひらがなに頼らず、漢字で書く姿勢が大事である。

（ウ）は4年連続で出題されていた助詞を見分ける問題から、助動詞の「れる・られる」を見分ける問題になった。受け身、可能、自発、尊敬のうち、どの意味になるかを見極められたかがポイントだった。

問二　古文　配点16点

難易度は昨年度より上がった印象。神奈川県の公立入試では難しい単語に現代語訳が書かれているが、正解を選んでいくためにはそれ以外の意味の把握も必要となる。古文の基本単語、指示語（「さ」や「か」）、助動詞（打消しの「ず」や「まじ」と完了の「ぬ」）、敬語（「のたまふ」や「はべり」など）に関しては、入試を意識した学習を行い、現代語訳できる力をつける必要がある。

問三　小説文　配点24点

文章量が約1ページ分増え、昨年度と同様に記述問題は出題されなかった。時代設定が「明治」で馴染みが薄かったことにより、読みづらい印象を持った受験生も多かったはず。平成27年度から3年連続で「朗読方法」と「文体」に関する問題が出題されている。

小説文では、登場人物の心情がポイントになる問題が多いが、主観で判断するのではなく、文中にある言葉だけで客観的に判断し、解く練習を積み重ねよう。

問四　評論文　配点30点

記述の問題が書き抜き式に変わった。傍線部の後ろから探せという指示もあり、特定の範囲から探せばよかった。本文は抽象語が多く、とっつきにくい印象。普段の学習から漢字の習得と知らない語句の意味調べを積み重ねることが重要である。

問五　作文　配点10点

出題形式は昨年度と変わらなかったが、記述の文字数が65字以上75字以内から30字以内に減少。また、記述のまとめ方が登場人物の意見から抜粋する方式から、セリフやグラフから必要な情報を読み取って書く方式になった。必要な情報を読み取れたかがポイントとなった。

入試に向けての学習のポイント・アドバイス

読解力を制するものは、受験を制す。全ての科目で問われる基本的な力を身につけるためには、抽象的な語句の意味調べを地道に行い、理解することである。

Heart&Hard
北進ゼミナール